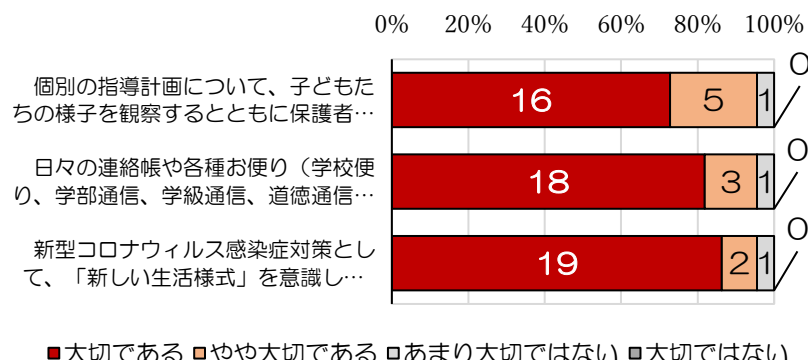
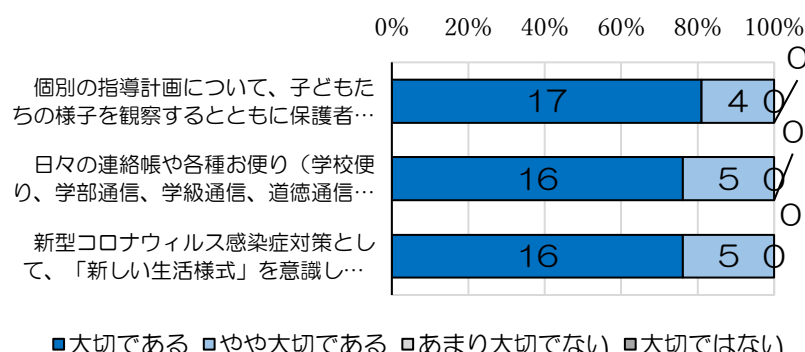


令和6年度学校評価保護者アンケート 教育活動に関するアンケート結果

教育活動「たしかに学ぶ子」（小学校保護者）



教育活動「たしかに学ぶ子」（中学校保護者）



「めざす子ども像」の一つ
「たしかに学ぶ子」に関する設問
＜小学校＞

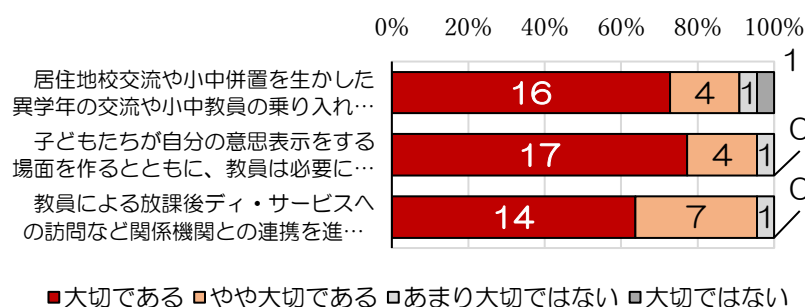
- ①「学校・家庭の連携、個別の指導計画」
・肯定的回答 **95.5%**（昨年 95.8%）
- ②「情報共有」
・肯定的回答 **95.5%**（昨年 95.8%）
- ③「新生活様式を踏まえた教育活動」
・肯定的回答 **95.5%**（昨年 95.8%）

＜中学校＞

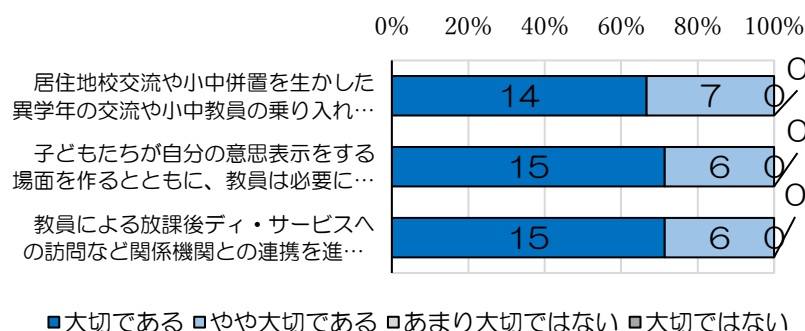
- ①「学校・家庭の連携、個別の指導計画」
・肯定的回答 **100%**（昨年 100%）
- ②「情報共有」
・肯定的回答 **100%**（昨年 100%）
- ③「新生活様式を踏まえた教育活動」
・肯定的回答 **100%**（昨年 100%）

※肯定的回答：「大切である」と
「やや大切である」の合計（以下同様）
小・中学校ともに、重点として取り組んできたことの必要性について、ご家庭のご理解とご協力をいただいていることに感謝申し上げます。
今後も、より効果的な学習活動を模索し継続してまいります。

教育活動「かかわりをもてる子」（小学校保護者）



教育活動「かかわりをもてる子」（中学校保護者）



「めざす子ども像」の二つ目である
「かかわりをもてる子」に関する設問
＜小学校＞

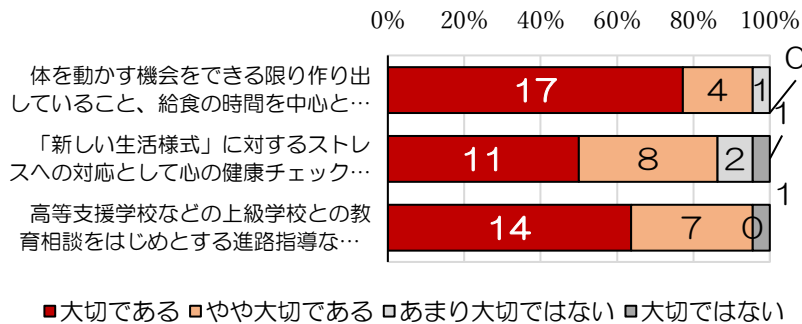
- ④「人と関わる場面の創出」
・肯定的回答 **90.9%**（昨年 95.8%）
- ⑤「決める、伝える場面の設定」
・肯定的回答 **95.5%**（昨年 95.8%）
- ⑥「関係機関との情報共有」
・肯定的回答 **95.5%**（昨年 83.3%）

＜中学校＞

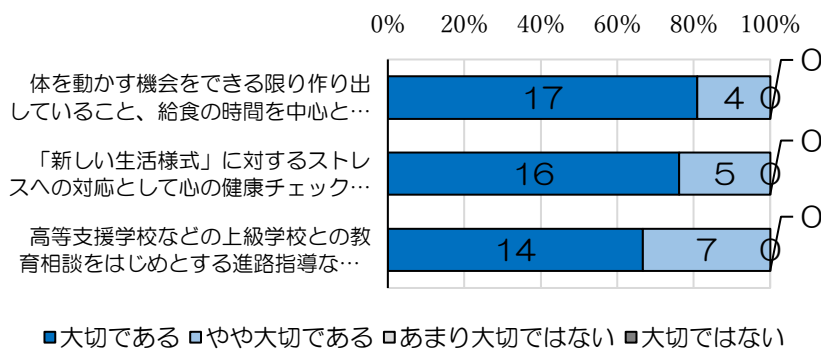
- ④「人と関わる場面の創出」
・肯定的回答 **100%**（昨年 96.2%）
- ⑤「決める、伝える場面の設定」
・肯定的回答 **100%**（昨年 96.2%）
- ⑥「関係機関との情報共有」
・肯定的回答 **100%**（昨年 100%）

年度の重点「かかわりを通して学び、主体的に未来を生き抜く子どもの育成～一人一人が輝く「かかわり」「つながり」「ひろがり」の実現～」と直接関連する項目です。小中ともに「人とかかわる、つながる場面の創出」のある程度の成果をご家庭でも感じていただけている結果となっています。今後も、小中連携はもとより、放課後デイなど、関係機関との連携を深め、子どもたちのより豊かな学びにつなげていきたいと考えます。

教育活動「たくましく生きる子」（小学校保護者）

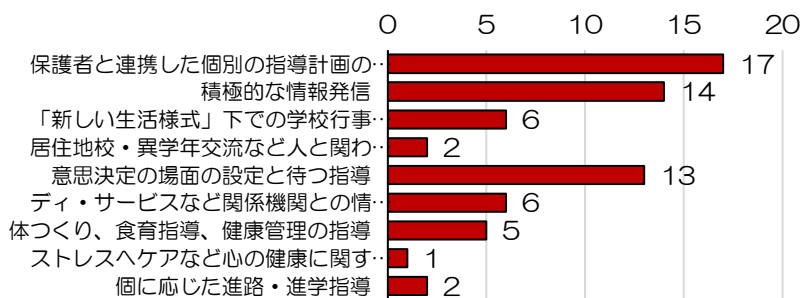


教育活動「たくましく生きる子」（中学校保護者）



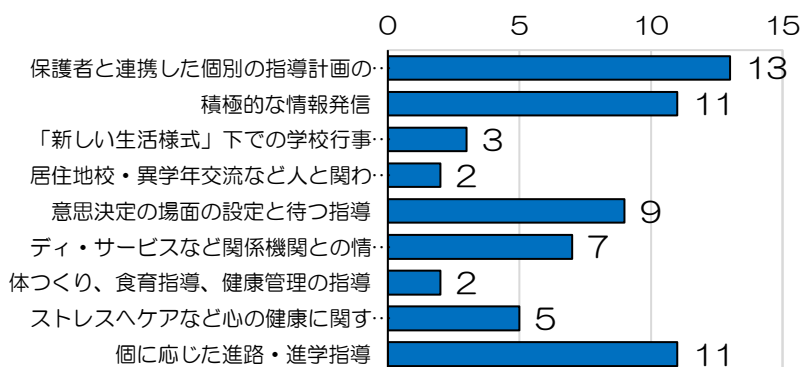
より大切な取組と思う教育活動（小学校保護者）

※3つ選択



より大切な取組と思う教育活動（中学校保護者）

※3つ選択



「めざす子ども像」の三つ目
「たくましく生きる子」に関する設問
＜小学校＞

⑦「体力向上・食育指導」
・肯定的回答 **95.5%** (昨年 95.8%)

⑧「心の健康チェック」
・肯定的回答 **86.4%** (昨年 87.5%)

⑨「個に応じた進路指導」
・肯定的回答 **95.5%** (昨年 91.7%)

＜中学校＞

⑦「体力向上・食育指導」
・肯定的回答 **100%** (昨年 100%)

⑧「心の健康チェック」
・肯定的回答 **100%** (昨年 96.2%)

⑨「個に応じた進路指導」
・肯定的回答 **100%** (昨年 100%)

いずれの項目も、自立や就労に向けて必要とされる資質・能力であることから、義務教育9年間で中長期的に育んでいかなければならないと学校では考えていますが、保護者の皆様も同様のお考えとわかります。「個に応じた進路指導」についても、義務教育委の修了を間近に控える中学校はもとより、小学校から長期的な視野で見据えていかなければならないと捉えています。

昨年までと似た傾向にあると言えるが、小学校では、

①保護者と連携した個別の指導計画の取組

②積極的な情報発信

③意思決定の場面の設定と待つ指導
中学校では、

①保護者と連携した個別の指導計画の取組

②積極的な情報発信

③個に応じた進路・進学指導

が、上位3項目でした。お子さまの状況を保護者の皆様と情報共有し、それぞれのお子さんの成長のための適切な支援を実施していく活動を今後とも本校では最優先に進めてまいります。

なお、この設問は、「3項目選ぶとしたら」という設定での問いであるため、上記6つのグラフと併せて読み取ることが必要と考えます。（進路・進学の意識に関する差は、小中で当然あるでしょう。）

これら教育活動に対するアンケートの結果につきましては、職員でさらに検討を行い、次年度の学校経営の基本方針、教育課程編成に反映してまいります。

